



2026年6月23日

2025年度「グリーンボールプロジェクト」実績報告 SSBJ基準の適用に向け「GBP App」がCO2排出量の算定・可視化を支援

ものづくり商社のリーディングカンパニーである株式会社山善（本社：大阪市西区、代表取締役社長：岸田貢司）は、2008年度より環境関連ビジネス「グリーンボールプロジェクト」(<https://www.greenball.jp/>)を推進しています。2025年度は、参加企業が695社、CO2削減貢献量^{※1}は42,203t-CO2となりました。



環境優良商品の普及を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する「グリーンボールプロジェクト」では、当社が取り扱う環境優良商品が、参加企業（販売店）を通じて工場や一般家庭に導入されることで生じるCO2削減の貢献量を、独自の「GBP プロトコル」に基づき算定・開示しています。2008年度から2025年度までの18年間で延べ13,924社が参加し、累計のCO2削減貢献量は653,301t-CO2となりました。

2027年3月期から平均時価総額上位（今年度は3兆円以上）企業を対象に、段階的に開示が義務化されるSSBJ基準^{※2}では、Scope1・2・3^{※3}の正確な排出量の集計作業が求められます。そのため、取引先企業にも排出量データの提出要請が広がることを見込まれます。

当社では、“GHG プロトコルに基づく総排出量”と、“GBP プロトコルに基づく削減貢献量”を算定・可視化するアプリケーション「GBP App^{※4}」（ジービーピー・アプリ）を導入し、CO2排出量を拠点・部署ごとに把握しています。さらに本アプリを、当プロジェクト参加企業（販売店）に提供しています。加えて、2024年からは当社の仕入先（メーカー）への販売も開始し、サプライチェーンにおけるCO2排出量および削減貢献量の算定・可視化を推進しています。

当社は、今後もグリーンボールプロジェクトの活動並びに「GBP App」を活用したGX推進を通じて、環境活動とビジネスの両立を図り、サプライチェーン全体の脱炭素に寄与してまいります。

■グリーンボールプロジェクトの成果

	2025 年度	累計 (2008 年度～2025 年度)
CO2 削減貢献量	42,203t-CO2	653,301t-CO2
参加企業数	695 社	13,924 社

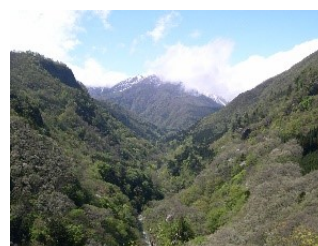
■「GBP App」の特長

- ✓ GHG プロトコルと独自の GBP プロトコルにより、排出量と削減貢献量を可視化
- ✓ 排出量の報告、開示が可能な算定報告書の作成が可能
- ✓ カーボンニュートラルに向けた中長期の進捗管理が可能
- ✓ 対象商品の販売量に応じた削減貢献量を算定・可視化



■公益財団法人日本自然保護協会への活動支援

グリーンボールプロジェクトは、公益財団法人日本自然保護協会を支援しています。同協会は、「暮らしを支える自然の豊かさを守り、その価値を広め、自然とともにある社会を実現する。」をミッションに掲げ、活動しています。



写真提供：公益財団法人日本自然保護協会

■GX フェューチャー・コンソーシアムに参加しています

当社は、GX 推進機構が事務局を務める「GX フェューチャー・コンソーシアム」に参加しています。



※1：ベースライン比較法に基づくプログラム型削減。

※2：サステナビリティ基準委員会 (SSBJ) が、国際サステナビリティ基準委員会 (ISSB) 基準を基に策定した、日本のサステナビリティ開示基準。

※3：事業者による GHG 排出量の算定・報告対象範囲の区分。

(Scope1:自社の事業活動における直接的な GHG 排出 Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用により発生する間接的な GHG 排出 Scope3:上記以外の事業活動に関わるサプライチェーンの GHG 排出)

※4:株式会社ゼロボードが提供する SaaS 型の CO2 算定アプリケーションを一部カスタマイズしたもの。

今後も当社は、パーパスである「ともに、未来を切拓く」のもと、世界のものづくりと豊かな暮らしをリードしてまいります。

※ ニュースリリースの内容は発表時のものです。閲覧いただいている時点では内容が異なっている場合がありますのでご了承下さい。

(お問合せ窓口) 株式会社 山善 広報・IR室 担当 米田
電話 06-6534-3095
E-mail : info07@yamazen.co.jp